

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

別添資料 一覧

- 資料 1 下関市立大学「データサイエンス学部（仮称）」設置に係る学生確保の見通し調査（設置構想についての高校生アンケート調査）報告書
- 資料 2 県別・高校生アンケート調査実施状況
- 資料 3 国公立大学 情報系 一般選抜入試結果 動向（2020～2022 年度）
- 資料 4 私立大学 情報系学部 動向（2020～2022 年度）
- 資料 5 18歳人口予測（文部科学省「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」より抜粋）
- 資料 6 国公立大学 情報系学部 志願状況（2019～2022 年度）
- 資料 7 下関市立大学経済学部 志願者等の状況（2018～2022 年度）
- 資料 8 下関市立大学経済学部 学生数ならびに収容定員充足状況
- 資料 9 下関市立大学 学生募集に向けた具体的な取組実績
- 資料 10 下関市立大学 Web サイト（動画配信ページ）および 公式 Facebook ページ
- 資料 11 下関市立大学データサイエンス学部 広報計画（案）
- 資料 12 下関市立大学「データサイエンス学部（仮称）」設置に係る人材需要の見通し調査（設置構想についての人材需要アンケート調査）報告書

下関市立大学
「データサイエンス学部（仮称）」
設置に係る学生確保の見通し調査
（設置構想についての高校生アンケート調査）
報告書

2023（令和5）年2月
株式会社高等教育総合研究所

下関市立大学
「データサイエンス学部(仮称)」
設置に係る学生確保の見通し調査
(設置構想についての高校生アンケート調査)

報告書 目次

1. 高校生アンケート調査 実施概要	3
2. 高校生アンケート調査 集計結果	5
3. 高校生アンケート調査 集計結果ポイント	8
(添付資料)	12
高校生アンケート調査用紙(紙方式)	13
「データサイエンス学部(仮称)」リーフレット(紙方式)	15
高校生アンケート調査回答画面(Web方式)	17

1. 高校生アンケート調査 実施概要

調査対象	下関市立大学が2024(令和6)年度に設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」への入学が見込まれる、山口県内の高校のほか、下関市立大学への出願実績がある中国、九州、四国、近畿、東海各地方の高校に、高校2年生(令和4年度時点)を対象とした高校生アンケート調査の実施を依頼し、78校から実施協力を得た。 (都道府県および設置者別・高校所在地および設置者別アンケート実施人数)
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 回答者の基本情報(性別、居住地)● 回答者の希望進路、下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」と特色への興味● 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」への受験・入学意向 他全7問ですべて選択肢式。
調査時期	令和4(2022)年11月～令和5(2023)年1月
調査方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB方式のいずれかでアンケート調査を実施。 <ul style="list-style-type: none">● 紙方式の場合、アンケート用紙・「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットを必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。● WEB方式の場合、担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイトURLおよびアクセス用QRコードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。
回答件数	有効回答数9,742人

都道府県および設置者別

アンケート実施高校数

都道府県	公立	私立	総計	構成比
愛知県	2		2	2.6%
兵庫県	3		3	3.8%
和歌山県		2	2	2.6%
鳥取県	1		1	1.3%
島根県	1		1	1.3%
岡山県	6	1	7	9.0%
広島県	6		6	7.7%
山口県	17	7	24	30.8%
香川県	3	1	4	5.1%
愛媛県	2	1	3	3.8%
高知県	1		1	1.3%
福岡県	5	4	9	11.5%
長崎県	2	1	3	3.8%
熊本県	2		2	2.6%
大分県	7		7	9.0%
鹿児島県	3		3	3.8%
総計	61	17	78	100.0%

高校所在地および設置者別

アンケート回答人数

都道府県	公立	私立	総計	構成比
愛知県	504		504	5.2%
兵庫県	326		326	3.3%
和歌山県		287	287	2.9%
鳥取県	35		35	0.4%
島根県	238		238	2.4%
岡山県	766	362	1,128	11.6%
広島県	932		932	9.6%
山口県	1,497	437	1,934	19.9%
香川県	467	103	570	5.9%
愛媛県	443	66	509	5.2%
高知県	265		265	2.7%
福岡県	573	849	1,422	14.6%
長崎県	306	11	317	3.3%
熊本県	187		187	1.9%
大分県	748		748	7.7%
鹿児島県	340		340	3.5%
総計	7,627	2,115	9,742	100.0%

2. 高校生アンケート調査 集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものにマーク)

選択肢		回答数	構成比(%)
1	男性	4,322	44.4%
2	女性	5,061	52.0%
3	答えたくない	313	3.2%
	無回答	46	0.5%
合計		9,742	100.0%

問2 あなたがお住まいの都道府県・地域をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択肢	回答数	構成比(%)	選択肢	回答数	構成比(%)		
1	山口県 (下関市内)	925	9.5%	17	愛媛県	507	5.2%
2	山口県 (下関市以外)	948	9.7%	18	高知県	265	2.7%
3	鳥取県	35	0.4%	19	滋賀県	1	0.0%
4	島根県	236	2.4%	20	京都府	1	0.0%
5	岡山県	1,118	11.5%	21	大阪府	62	0.6%
6	広島県	931	9.6%	22	兵庫県	329	3.4%
7	福岡県	1,407	14.4%	23	奈良県	0	0.0%
8	佐賀県	14	0.1%	24	和歌山県	227	2.3%
9	長崎県	316	3.2%	25	岐阜県	0	0.0%
10	熊本県	187	1.9%	26	静岡県	0	0.0%
11	大分県	736	7.6%	27	愛知県	504	5.2%
12	宮崎県	1	0.0%	28	三重県	1	0.0%
13	鹿児島県	334	3.4%	29	新潟県	2	0.0%
14	沖縄県	7	0.1%	30	富山県	1	0.0%
15	徳島県	3	0.0%	31	石川県	0	0.0%
16	香川県	557	5.7%	32	福井県	1	0.0%
					無回答	86	0.9%
合計			合計			9,742	100.0%

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

選択肢	回答数	構成比(%)	
1	進学 (大学)	8,343	85.6%
2	進学 (短期大学)	170	1.7%
3	進学 (専門学校)	611	6.3%
4	就職	220	2.3%
5	現時点では未定	348	3.6%
	無回答	50	0.5%
合計		9,742	100.0%

問4以降は別紙・下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットを確認の上、回答を求めた。

問4 以下は下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」の特色となります。この中で、あなたが興味のあるものをお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

	選択肢	回答数	回答率(%)
1	多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成。	1,827	18.8%
2	3～4年次の学部専門科目として「ビジネスデータサイエンス」「ヘルスデータサイエンス」の科目群を設ける。	526	5.4%
3	「ビジネスデータサイエンス」の科目群では、さまざまな企業・組織の経営へのデータ活用の手法を学ぶ。	1,566	16.1%
4	「ヘルスデータサイエンス」の科目群では、人々の健康な生活を実現するためのデータ活用の手法を学ぶ。	970	10.0%
5	卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、企業、公的機関、医療機関等での活躍が想定される。	2,098	21.5%
6	選択制で教員免許(中高数学、高校情報)や社会調査士の免許・資格が取得可能。	1,826	18.7%
7	(特にない場合)あてはまるものはない。	4,111	42.2%

※複数回答の結果。回答率=各回答数÷回答対象者(9,742人)である。

※「(特にない場合)あてはまるものはない。」を選択し、上記1～6の項目を選択の場合、1～6の回答は無効としている。

問5 あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択肢	回答数	構成比(%)
1	受験したい	499	5.1%
2	受験しない	9,173	94.2%
	無回答	70	0.7%
合計		9,742	100.0%

問6は問5で「受験したい」とした499人に回答を求めた。

問6 あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択肢	回答数	構成比(%)
1	合格した場合、入学したい	163	32.7%
2	合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい	330	66.1%
	無回答	6	1.2%
合計		499	100.0%

【クロス集計結果】

問5・6結果について、問3で「進学(大学)」を選択し、かつ問4で1～6の特色を1つ以上選択かつ7を未選択の回答者を抽出。(「(特にない場合)あてはまるものはない」としながら他の選択肢を選択の場合は「あてはまるものはない」のみ有効とした)

選択肢	回答数
問5で「受験したい」	421
問6で「合格した場合、入学したい」	126
問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」	293

問7は問5で「受験したいと思わない」とした9,173人に回答を求めた。

問7 あなたが問5で下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

	選択肢	回答数	回答率(%)
1	下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	388	4.2%
2	興味・関心のある分野ではないから	5,102	55.6%
3	他の国公立大学進学を希望しているから	3,526	38.4%
4	私立大学進学を希望しているから	907	9.9%
5	進路は未定だから	902	9.8%
6	通学に時間がかかりそうだから	717	7.8%
7	卒業後の進路がイメージできないから	590	6.4%
8	その他	166	1.8%

※複数回答の結果。回答率=各回答数÷回答対象者（9,173人）である。

3. 高校生アンケート調査 集計結果ポイント

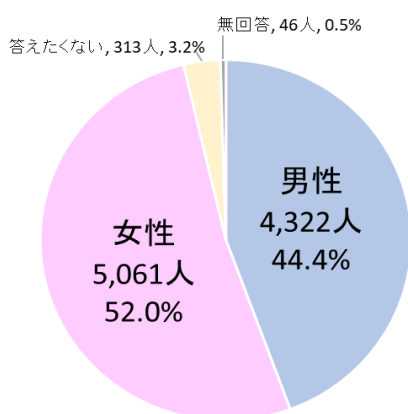
①回答を得た高校生の性別・居住地・高校卒業後の希望進路

Point 1 中国地方・九州地方を中心とした西日本の高校2年生9,742人がアンケートに回答。「進学(大学)」希望が85%を占める。

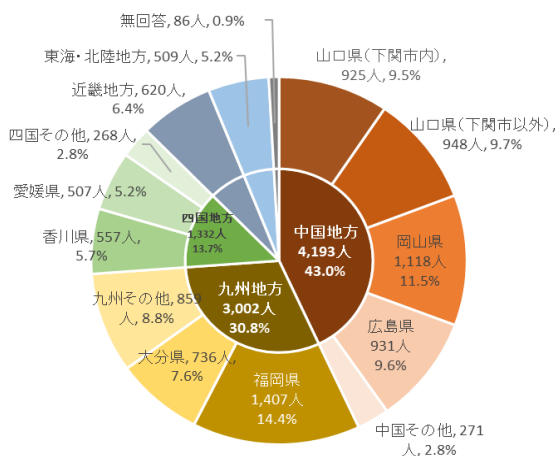
下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」の学生確保の見通しを検証するため、高校生アンケート調査を実施し、9,742人から回答を得た。

回答者の性別は「女性」5,061人(52.0%)、「男性」4,322人(44.4%)、「答えたくない」313人(3.2%)であった(グラフ1)。居住地別では「山口県」1,873人(19.2%/下関市・下関市以外の合計)が最も多く、「岡山県」1,118人(11.5%)、「広島県」931人(9.6%)などを含めた中国地方では4,193人(43.0%)であった。他に「福岡県」1,407人(14.4%)、「大分県」736人(7.6%)などを含む九州地方3,002人(30.8%)の他、四国地方1,332人(13.7%)、近畿地方620人(6.4%)、東海・北陸地方509人(5.2%)など、下関市立大学への志願実績がある西日本の高校に在学する高校2年生から回答を得た(グラフ2)。高校卒業後の希望進路は「進学(大学)」が最も多く8,343人(85.6%)であった(グラフ3)。

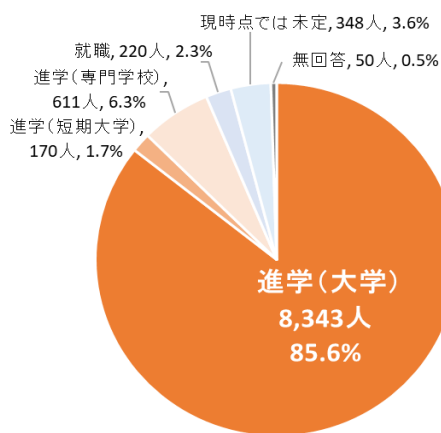
グラフ1: 回答者の性別(問1結果より)



グラフ2: 回答者の居住地(問2結果より)



グラフ3: 回答者の希望進路(問3結果より)



②高校生が興味を示す「データサイエンス学部(仮称)」の特色

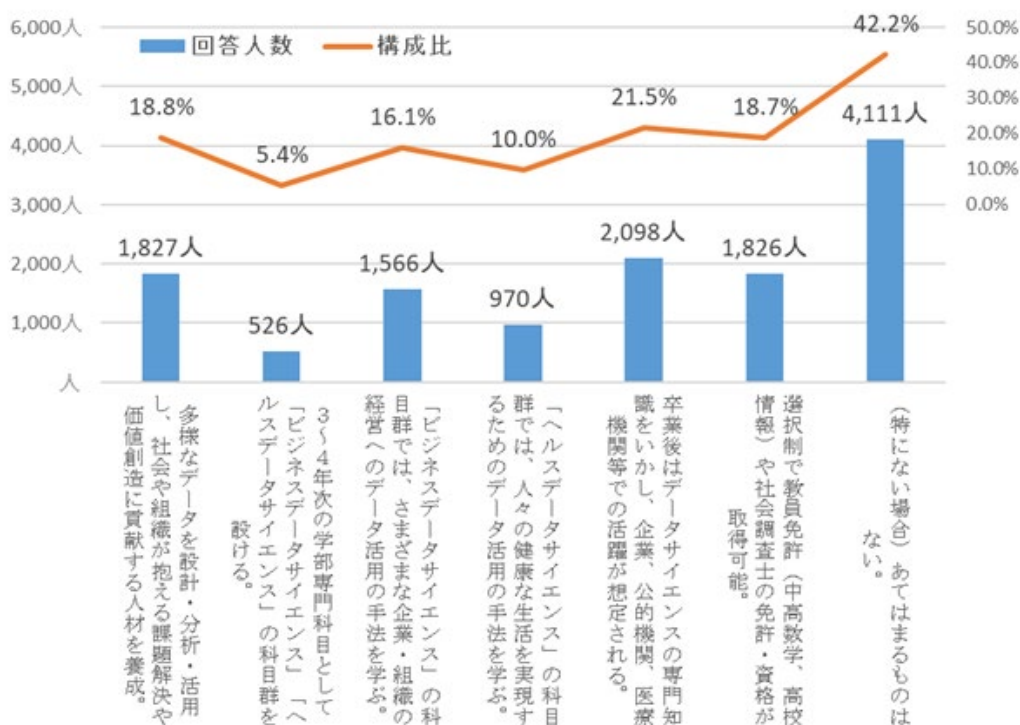
Point 2

「データサイエンス学部(仮称)」の特色として「卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、企業、公的機関、医療機関等での活躍が想定される。」に2割強が興味で最多。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」概要を提示した上で、興味のある特色について回答を求めた。結果、興味のある特色として最も回答数が多かったのは「卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、企業、公的機関、医療機関等での活躍が想定される。」で全体の2割強にあたる2,098人(21.5%)が挙げた。次いで「多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成。」が1,827人(18.8%)、「選択制で教員免許(中高数学、高校情報)や社会調査士の免許・資格が取得可能。」1,826人(18.7%)であった(グラフ4/複数回答の結果)。

※「(特にない場合)あてはまるものはない」を選択している場合は、他の項目を選択していても無効扱い(選択した特色はカウントしない)とした。

グラフ4: 回答者が興味のある下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」特色(問4結果より)

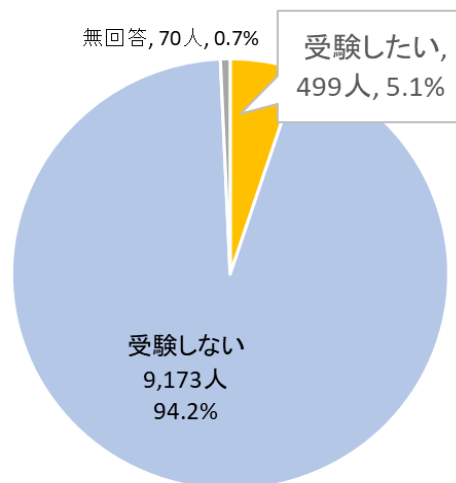


③「データサイエンス学部(仮称)」に対する受験・入学意向1

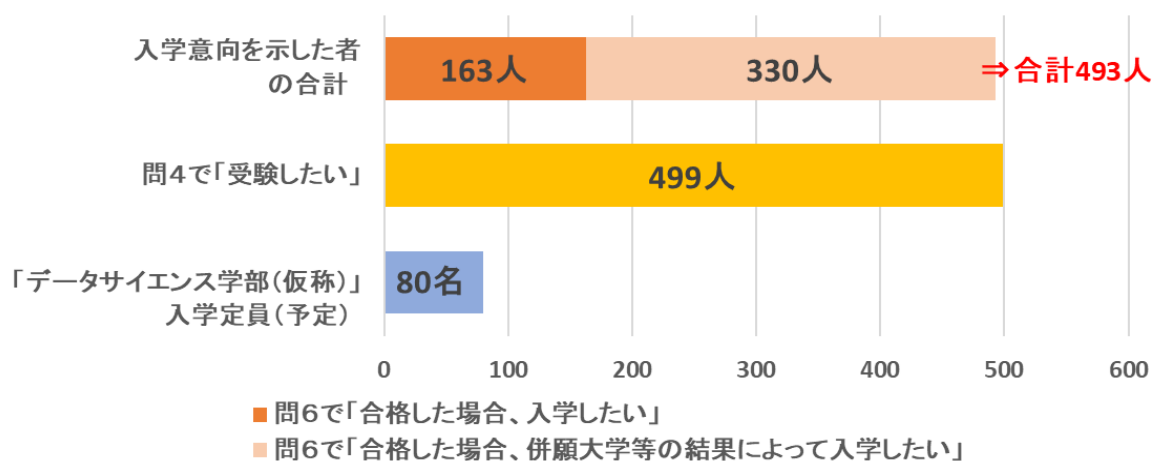
Point 3 下関市立大学の「データサイエンス学部(仮称)」に対し入学定員80名の6.24倍となる499人が受験意向を示し、その上で163人が強く入学を希望。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」の概要を提示した上で、受験・入学意向について回答を求めた。結果、「データサイエンス学部(仮称)」を「受験したい」としたのは499人(5.1%)で、「データサイエンス学部(仮称)」が予定する入学定員80名の6.24倍の水準であった。これらの受験意向を示した高校生に対し、合格した場合の入学意向について回答を求めたところ、強い入学意向を持つと考えられる「合格した場合、入学したい」とした回答者は163人で、入学定員の2.04倍に及ぶ水準であった。他にも「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」は330人であった。

グラフ5: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」
受験意向(問5結果より)



グラフ6: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」
入学意向の状況(問6結果より/一部、問5結果より)



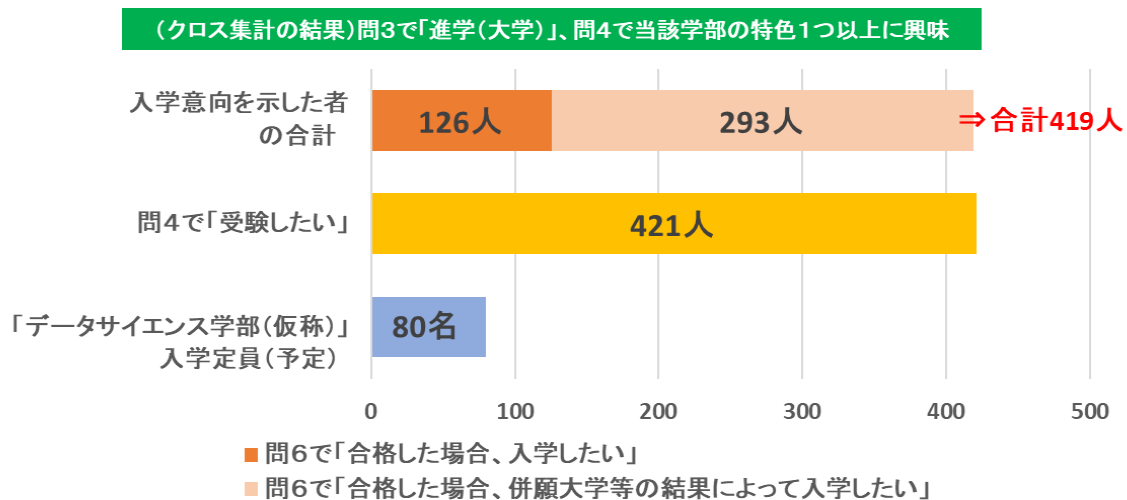
④「データサイエンス学部(仮称)」に対する受験・入学意向2 (クロス集計結果)

Point 4

「データサイエンス学部(仮称)」に対し大学進学、学部への興味を踏まえたクロス集計を行ってもなお、入学定員80名を上回る126人の入学希望者を確認。

Point 3で示した受験・入学意向の結果についてクロス集計を行い、回答者本人が大学進学意向を示し(問3結果)、「データサイエンス学部(仮称)」特色に関心を示した(問4結果)回答者のみ抽出を行った。以上のようなクロス集計の結果、「データサイエンス学部(仮称)」を「受験したい」としたのは421人で、依然として入学定員80名の5.26倍の水準であった。その上で、強い入学意向を持つと考えられる「合格した場合、入学したい」とした回答者は126人おり、入学定員の1.58倍に及ぶ水準であった。

グラフ7: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」
入学意向の状況(問6結果より/一部、問5結果より)



(添付資料)



下関市立大学 「データサイエンス学部(仮称・設置構想中)」

設置構想についての高中生アンケート調査

(対象：2022年度現在、高校2年生の皆さん)

下関市立大学は2024(令和6)年度、「データサイエンス学部(仮称・入学定員80名)」を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2024年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたくと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は下関市立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。



問1 あなたの性別をお答えください。（あてはまるものにマーク）

- 男性 女性 答えたくない

問2 あなたがお住まいの都道府県・地域をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

【中国地方】

- 山口県（下関市内） 山口県（下関市以外）
 鳥取県 島根県 岡山県 広島県

【九州・沖縄地方】

- 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

【四国地方】

- 徳島県 香川県 愛媛県 高知県

【近畿地方】

- 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

【東海地方】

- 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県

【北陸地方】

- 新潟県 富山県 石川県 福井県

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。（現時点で最もあてはまるもの1つにマーク／専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください）

- 進学（大学） 進学（短期大学） 進学（専門学校） 就職 現時点では未定





問4以降は別紙・下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットをご覧ください。

問4 以下は下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」の特色となります。この中で、あなたが興味のあるものをお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成。
- 3～4年次の学部専門科目として「ビジネスデータサイエンス」「ヘルスデータサイエンス」の科目群を設ける。
- 「ビジネスデータサイエンス」の科目群では、さまざまな企業・組織の経営へのデータ活用の手法を学ぶ。
- 「ヘルスデータサイエンス」の科目群では、人々の健康な生活を実現するためのデータ活用の手法を学ぶ。
- 卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、企業、公的機関、医療機関等での活躍が想定される。
- 選択制で教員免許(中高数学、高校情報)や社会調査士の免許・資格が取得可能。
- (特にない場合)あてはまるものはない。

問5 あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- 受験しない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問5で「受験したい」と回答した方は、以下の問6にお答えください。

問6 あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい
- 合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい

※下関市立大学周辺でデータサイエンス、情報科学、情報工学などが学べる大学：
広島市立大学情報科学部、山口東京理科大学工学部数理情報科学科、九州工業大学情報工学部 など

問5で「受験しない」と回答した方は、以下の問7にお答えください。

問7 あなたが問5で下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 興味・関心のある分野ではないから
- 他国公立大学進学を希望しているから
- 私立大学進学を希望しているから
- 進路は未定だから
- 通学に時間がかかりそうだから
- 卒業後の進路がイメージできないから
- その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



学 納 金

対 象	入学金	授業料	初年次学納金合計
下 関 市 内 在 住 者	141,000円	535,800円	676,800円
上 記 以 外	282,000円		817,800円

※下関市内在住者とは、本人又はその配偶者若しくは親(実父母及び養父母をいう。)が入学前年の4月1日から引き続き下関市内に住所を有すると住民票等により理事長が認めたる者をさします。
※諸会費は含まれません。

下関市立大学について

創立以来約60年の歴史を持つ公立大学です。経済学部(経済学科、国際商学科、公共マネジメント学科)のみの単科大学から、総合大学化を目指し、2024年にはデータサイエンス学部(仮称)を、2025年には看護学部(仮称)を新設する予定です。

学部・学科(2024年度予定)

学部・学科	入学定員(予定)
データサイエンス学部(仮称)	80名
・データサイエンス学科(仮称)	80名
経済学部	370名
・経済学科	155名
・国際商学科	155名
・公共マネジメント学科	60名



ACCESS

- JR下関駅 から**
 - ・サンデンバス3番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
 - ・サンデンバス5番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分
- JR幡生駅 から**
 - ・徒歩約20分
- JR新下関駅(新幹線・東口) から**
 - ・サンデンバス2番のりば(約15分乗車)、「川中豊町線」に乗車、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
 - ・タクシー利用の場合約10分



2024年4月
設置予定!

データサイエンス学部

データサイエンス学科

仮称・設置構想中



FACULTY OF DATA SCIENCE

(仮称・設置構想中)

下関市立大学のデータサイエンス学部は、多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成します。

学部・学科名称	データサイエンス学部 データサイエンス学科(仮称)
開設予定時期	2024年(令和6年)4月を予定
開設予定場所	下関市立大学(山口県下関市大学町二丁目1番1号)
入学定員	80名(収容定員320名)
修業年限	4年
取得学位	学士(データサイエンス)

データサイエンスとは

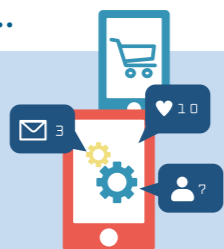
今や国内外問わず、またビジネス・保健医療福祉・行政等の幅広い分野において、データを分析し常に新しい戦略を立てることが常識となっています。そのためには普段から「課題を見つけ」「情報を集め」「分析し」「新たな知見を見出す」チカラを養っていなければなりません。

体系立った理論をもつ「情報科学」でありながら、ビジネスなどにも欠かせない「実学」でもある、それがデータサイエンスです。

データに基づく統計的な思考により課題を解決するデータサイエンスを身につけた人材、いわゆる“データサイエンティスト”は今後、世界中のあらゆる分野で活躍が期待されています。

販売業、サービス業では…

顧客情報や購入履歴、Webサイトの閲覧履歴などを分析して、「この人にはこんな商品を提案すれば購入してもらえる可能性が高い」商品を表示する。



医療分野では…

病院で蓄積される膨大な医療データを分析することで、医師や看護師の負担をできるだけ軽減しながら、病気の早期発見、予防、治療に役立っている。



下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」

養成する人材とディプロマポリシー

下関市立大学の「データサイエンス学部(仮称)」は、多様なデータを設計・分析・活用するために必要な数理統計・情報学・社会科学に関する理論と実務に習熟することにより、社会や組織が抱える課題の解決や新たな価値の創造に貢献しうる人材を養成します。次の4つの資質(A~D)を備えた人材(データサイエンティスト)に学士(データサイエンス)を授与します。

A 統計や関連する数理科学に関する知識と、それらを活用した分析の経験を通じて、データを収集・整理・分析し、そこから得られる知見を論理的に考察できる能力を身につけている。

B 情報の管理や分析、人工知能などのアルゴリズムに関する知識を有し、かつそれらをコンピュータ上で表現する経験を通じて、様々な形式のデータを適切に扱うことのできる能力を身につけている。

C 多様な専門分野でデータ分析がどのように行われているかを、各分野固有の知識とあわせて学ぶことで、データが社会に果たしうる役割を理解するとともに、データを扱ううえで必要な倫理観や責任感(モラル)を身につけている。

D 様々な人々と協力し適切なコミュニケーションをとることができ、用いた分析手法や結果の統計的解釈をわかりやすく伝達することで、課題解決やより良い企業活動などのための新しい知見をもたらすことのできる能力を身につけている。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」

カリキュラム(教育課程)の特色

本学のカリキュラム(教育課程)は、基盤教育・教養教育・専門教育の3本柱から成り立っています。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」では1~2年次は主にデータサイエンスの基礎科目として数理統計や情報科学を学びます。さらに3~4年次は学部専門科目として「ビジネスデータサイエンス」「ヘルスデータサイエンス」の科目群を設け実践力を養います。加えて、全学共通の基盤教育・教養科目として外国語教育科目、リベラルアーツ科目、キャリア教育科目を履修することで豊かな教養と優れた就業力を身につけ、様々なデータを活用して各分野において新たな価値を創造したり諸課題を解決に導くことができるデータサイエンティストを養成します。

学部基礎科目

データサイエンスの基盤となる数理統計・情報科学を学びます。数学・情報学をはじめ、プログラミングや確率・統計、機械学習、データ処理・分析、アルゴリズムについての知識を身につけます。

科目例 線形代数学、解析学、アルゴリズム論、データサイエンス入門・基礎・演習、人工知能概論、機械学習 など

学部専門科目

2つの科目群を設け、様々な分野で活用できるデータサイエンスの実践力を身につけます。

ビジネスデータサイエンス

様々な企業・組織の経営へのデータ活用の手法を学びます。

科目例 経営情報概論、情報システム論、オペレーションズリサーチ、E-コマース論 など

ヘルスデータサイエンス

人々の健康な生活を実現するためのデータ活用の手法を学びます。

科目例 疫学・公衆衛生学概論、保健医療学概論、遺伝学概論、バイオインフォマティクス、生物統計学 など

基盤教育・教養科目

● 外国語教育科目
● リベラルアーツ科目 ● キャリア教育 ほか

専門知識と豊かな教養を備えたデータサイエンティスト

4年間を通じ一貫した少人数教育

想定される進路

卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、幅広い業種で企画・マーケティング、システムエンジニアとして、または公的機関や医療機関でヘルスケアに関連する業務に従事することが想定されます。

進路先の例

- 製造業・小売業・広告業・出版業 ● IT・情報通信業 ● 行政
- 保健・医療機関(大学病院を含む) ● 研究所・シンクタンク
- 製薬会社 ● 金融機関(銀行・保険・証券など) ● 大学院進学 など

取得可能な資格

所定の単位修得(選択制)により、下記の免許・資格が取得できます。

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(情報)
- 社会調査士



TOP画面

下関市立大学 「データサイエンス学部（仮称・設置構想 中）」 設置構想についての高校生アンケート調査

1ページ目（全4ページ）

下関市立大学は2024(令和6)年度、「データサイエンス学部(仮称・入学定員80名)」を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2024年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は下関市立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

規約に同意する **必須**

このアンケートは、おひとりにつき一回までとなります。

同意する

規約に同意の上チェックしてください

次へ

問1・問2・問3

2ページ目 (全4ページ)


あなたの性別をお答えください。 **必須**

男性

女性

答えたくない

あなたがお住まいの都道府県・地域をお答えください。 **必須**

選択してください 

あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください) **必須**

進学 (大学)

進学 (短期大学)

進学 (専門学校)

就職

現時点では未定

次へ

戻る

データサイエンス学部(仮称)リーフレット

※スクロールすることで全ページ閲覧が可能。一番下に「次へ」ボタン。

3ページ目 (全4ページ)

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットをご覧の上、お答えください。

2024年4月
設置予定!



データサイエンス学部

データサイエンス学科

仮称・設置構想中



FACULTY OF DATA SCIENCE

(仮称・設置構想中)

下関市立大学のデータサイエンス学部は、多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成します。

問4・問5

4ページ目 (全4ページ)

以下は下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」の特色となります。この中で、あなたが興味のあるものをお答えください。 **必須**

- 多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成。
- 3～4年次の学部専門科目として「ビジネスデータサイエンス」「ヘルスデータサイエンス」の科目群を設ける。
- 「ビジネスデータサイエンス」の科目群では、さまざまな企業・組織の経営へのデータ活用の手法を学ぶ。
- 「ヘルスデータサイエンス」の科目群では、人々の健康な生活を実現するためのデータ活用の手法を学ぶ。
- 卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、企業、公的機関、医療機関等での活躍が想定される。
- 選択制で教員免許（中高数学、高校情報）や社会調査士の免許・資格が取得可能。
- （特にない場合）あてはまるものはない。

あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を受験したいと思いませんか。 **必須**

- 受験したい 受験しない

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

送信

戻る

問5にて「受験したい」選択⇒問6

あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を受験したいと思いますか。 **必須**

受験したい

受験しない

あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。 **必須**

合格した場合、入学したい

合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい

※下関市立大学周辺でデータサイエンス、情報科学、情報工学などが学べる大学：広島市立大学情報科学部、山口東京理科大学工学部数理情報科学科、九州工業大学情報工学部 など

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

送信

戻る

問5にて「受験しない」選択⇒問7

あなたは下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を受験したいと思いますか。 **必須**

受験したい 受験しない

あなたが下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。 **必須**

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから

興味・関心のある分野ではないから

他の国公立大学進学を希望しているから

私立大学進学を希望しているから

進路は未定だから

通学に時間がかかりそうだから

卒業後の進路がイメージできないから

その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

送信

戻る

資料2 県別・高校生アンケート調査実施状況

都道府県	高校数			生徒数（高校所在地別）		
	全日制高校数 *1	アンケート 実施高校数	実施率	2年生徒数 *2	アンケート 回答人数	実施率
愛知県	188	2	1.1%	58,236	504	0.9%
兵庫県	182	3	1.6%	39,374	326	0.8%
和歌山県	37	2	5.4%	7,295	287	3.9%
鳥取県	28	1	3.6%	4,500	35	0.8%
島根県	44	1	2.3%	5,388	238	4.4%
岡山県	75	7	9.3%	15,336	1,128	7.4%
広島県	112	6	5.4%	21,428	932	4.3%
山口県	64	24	37.5%	9,550	1,934	20.3%
香川県	31	4	12.9%	7,772	570	7.3%
愛媛県	55	3	5.5%	9,729	509	5.2%
高知県	32	1	3.1%	5,191	265	5.1%
福岡県	141	9	6.4%	38,891	1,422	3.7%
長崎県	71	3	4.2%	10,829	317	2.9%
熊本県	65	2	3.1%	13,941	187	1.3%
大分県	50	7	14.0%	9,084	748	8.2%
鹿児島県	87	3	3.4%	13,584	340	2.5%
合計	1,262	78	6.2%	270,128	9,742	3.6%

※出典：文部科学省「学校基本調査」および下関市立大学「データサイエンス学部」高校生アンケート調査

*1：文部科学省「学校基本調査」掲載の「都道府県別学校数」より

*2：文部科学省「学校基本調査」掲載の「学年別生徒数」より

資料3 国公立大学 情報系 一般選抜入試結果 動向 (2020～2022年度)

分類		募集人員					志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
		2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022
国公立	全体	100,243	98,990	98,762	99%	100%	439,615	425,419	429,349	97%	101%	118,736	118,361	118,042	100%	100%	3.7	3.6	3.6
	前期	80,149	79,938	80,079	100%	100%	243,103	235,409	234,557	97%	100%	90,980	91,046	91,912	100%	101%	2.7	2.6	2.6
公立	全体	22,156	22,051	22,115	100%	100%	132,423	129,483	126,400	98%	98%	30,311	30,594	30,430	101%	99%	4.4	4.2	4.2
	前期	16,229	16,200	16,394	100%	101%	60,331	58,226	55,239	97%	95%	20,633	20,549	21,022	100%	102%	2.9	2.8	2.6
中国・四国	前期	11,306	11,278	11,250	100%	100%	33,872	32,516	31,366	96%	96%	13,278	13,216	13,290	100%	101%	2.6	2.5	2.4
情報	前期	835	854	861	102%	101%	2,533	2,578	2,596	102%	101%	941	965	988	103%	102%	2.7	2.7	2.6

※出典：河合塾Kei-Net「大学入試情報」掲載の「これまでの入試」より

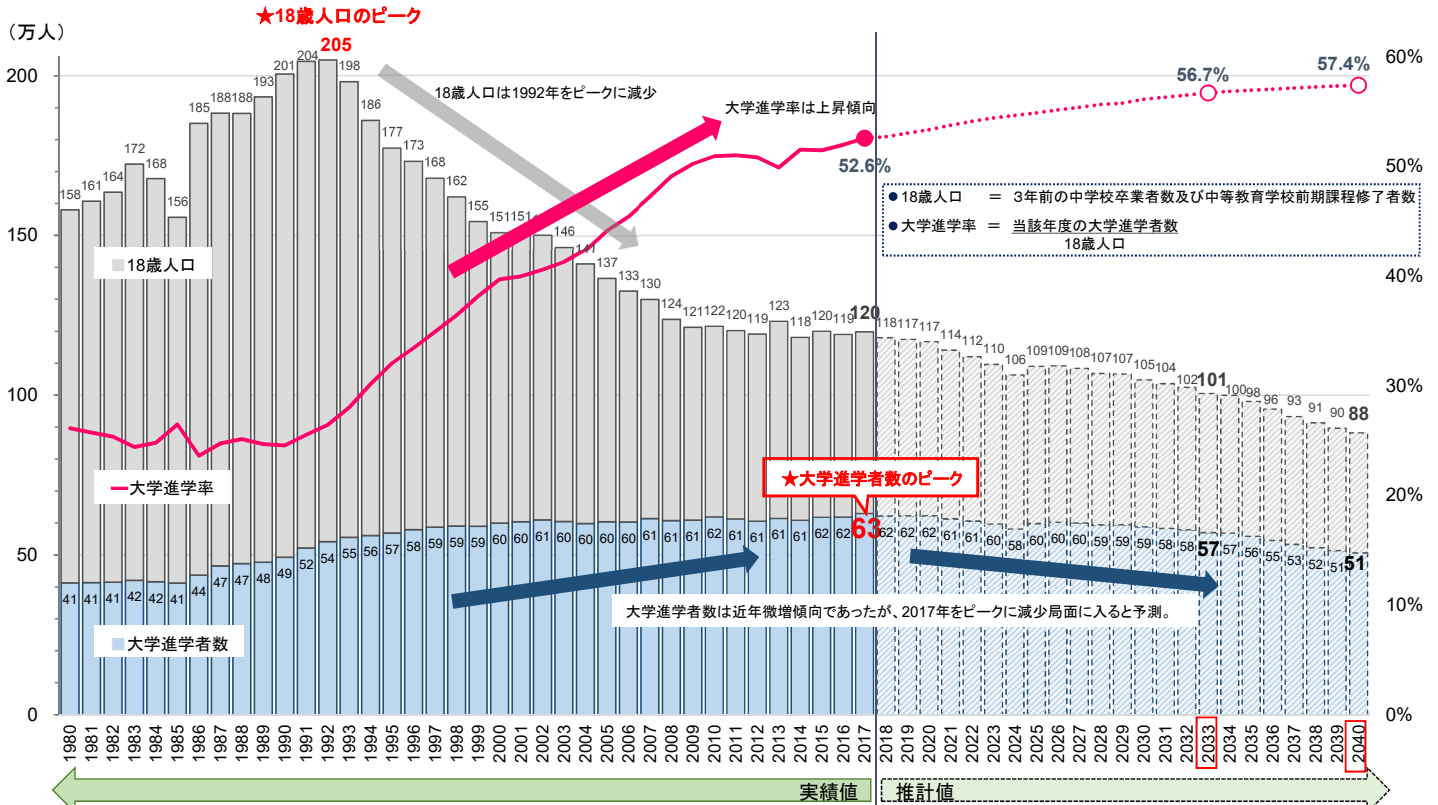
資料4 私立大学 情報系学部 動向（2020～2022年度）

学部名	募集人員					志願者数 (A)					入学者数 (B)					倍率 (A/B)		
	2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022	21/20	22/21	2020	2021	2022
情報科学部（理工学系）	1,046	1,090	1,100	104%	101%	27,781	29,130	35,040	105%	120%	1,136	1,237	1,165	109%	94%	24.5	23.5	30.1
情報学部（社会科学系）	2,040	2,040	2,410	100%	118%	22,097	21,409	37,270	97%	174%	2,155	2,234	2,689	104%	120%	10.3	9.6	13.9

※出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等 入学志願動向」掲載の「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」より

※学部名あとの（ ）は当該資料で示された分類

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成（2034年の都道府県比率で案分）
○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)について

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会（第13回）資料2より

● 本資料では、これまで基準としていた2016年を最新の2017年に更新するとともに、国立教育政策研究所による推計（2015年の大学進学率が一定のまま推移すると仮定した場合の2033年の大学進学者数等の推計）ではなく、過去3年間の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を動差した大学進学率の新たな推計に基づく2040年の大学進学者数等の推計を示している。

《注》

- 18歳人口：各県における3年前の中学校卒業業者数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 高校等卒業業者数：各県における当該年度の高等学校卒業業者数及び中等教育学校後期課程修了者数
- 大学進学者数：各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数（過年度卒業業者等を含む）
- 大学進学率：各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合（過年度卒業業者等を含む）
- 大学進学率(国公私別)：各県における国公私別の「大学進学率」
- 短大進学率：各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合（過年度卒業業者等を含む）
- 専門学校進学率(現役)：各県における高校等卒業業者数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合（現役進学者のみ）
- 大学数：各県に所在する大学の数（※大学本部の所在地による。大学院大学を含む。）
- 大学数(国公私別)：各県に所在する国公私別の「大学数」
- 入学定員★：各県に所在する大学(学部)の入学定員（※入学時の学部の所在地による。学部内の学科が複数の県にまたがる場合は、入学定員数が最も多い県に集計するなど補正している。）
【例：北里大学獣医学部の所在地は青森県十和田市であるが、1年次（入学時）は神奈川県相模原市のキャンパスで学ぶため、獣医学部の定員340名は青森県ではなく、神奈川県にカウントしている。】
- 入学定員(国公私別)★：各県に所在する国公私別の大学(学部)の「入学定員」
- 大学入学業者数★：当該年度に、各県に所在する大学（※入学時の学部の所在地による。）に入学した者の数（過年度卒業業者等を含む）
- 大学入学業者数(国公私別)★：各県に所在する国公私別の「大学入学業者数」
- 県外から流入★：当該大学の所在する県以外の高専等卒業業者で当該大学へ入学した者（過年度卒業業者等を含む）
- 県内から流出★：当該大学の所在する県内の高専等卒業業者で当該県（自県）以外に大学へ入学した者（過年度卒業業者等を含む）
- 流出入差(流入-流出)★：「県外から流入」-「県内から流出」
- 自県進学率★：各県における「大学進学者数」のうち、自県に所在する大学に進学した者の数（過年度卒業業者数を含む）
- 18歳人口推計【2040】：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に都道府県別18歳人口比率で案分
- 大学進学者数推計【2040】：2040年の都道府県別18歳人口推計×都道府県別大学進学率推計
- 大学進学率推計【2040】：過去3年間（2014～2017年度）の都道府県別の大学進学率の伸び率を延長（※男性は進学率の上昇が著しい県は+5ptを上限とし、女性は同県の男性の進学率の同値を上限）して推計。
- 大学入学業者数推計【2040】★：2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別大学入学業者比率で案分
- 大学入学業者数推計(国公私別)【2040】★：2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別・国公私別大学入学業者比率で案分
- 入学定員充足率推計【2040】★：大学入学業者数推計【2040】÷入学定員【2017】×100（入学定員が2017年と同じと仮定した場合の2040年の入学定員充足率推計）
- 入学定員充足率推計(国公私別)【2040】★：各県に所在する国公私別の大学入学定員充足率推計（2040年）

《出典》上記のうち、入学定員以外：文部科学省「学校基本統計（平成29年度）」を元に作成、★印は二次利用により得たデータを元に作成。
入学定員：文部科学省調べ（※「学校基本統計」二次利用により得たデータに合わせ、入学時の学部の所在地に再集計。）

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)①

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
18歳人口【2017】	47,624	13,256	12,530	22,026	9,303	10,850	19,782	28,661	18,920	19,530	65,774	55,647
高校等卒業者数【2017】	42,484	12,094	11,558	19,806	8,524	10,073	17,607	25,284	17,493	17,056	57,262	49,330
大学進学率【2017】	20.912	5.056	4.735	10.132	3.592	4.240	7.785	14.793	9.085	9.139	34.585	29.574
大学進学率【2017】	43.9%	38.1%	37.8%	46.0%	38.6%	39.1%	39.4%	51.6%	48.0%	46.8%	52.6%	53.1%
(国公私別)【2017】	9.8% 2.6% 31.5%	10.4% 4.3% 23.4%	10.4% 5.1% 22.3%	8.5% 2.4% 35.1%	12.6% 4.1% 21.9%	10.6% 2.8% 25.7%	7.5% 2.4% 29.5%	8.1% 1.8% 41.7%	8.1% 1.8% 38.1%	7.6% 3.7% 35.5%	3.8% 0.8% 48.0%	4.3% 0.5% 48.3%
短大進学率【2017】	5.3%	5.6%	4.5%	3.8%	6.5%	5.9%	5.4%	3.3%	4.6%	4.9%	4.1%	3.5%
専門学校進学率(現役)【2017】	21.9%	15.1%	17.4%	15.7%	17.0%	18.5%	18.8%	17.9%	17.3%	18.4%	16.7%	17.8%
大学数【2017】	38	10	6	14	7	6	8	9	9	13	28	27
(国公私別)【2017】	7 5 26	1 2 7	1 1 4	2 1 11	1 3 3	1 2 3	1 2 5	3 1 5	1 0 8	1 4 8	1 1 26	1 1 25
入学定員【2017】	18,917	3,472	2,826	11,374	2,090	2,624	3,389	6,948	4,703	6,381	29,340	26,060
入学定員(国公私別)【2017】	5,617 1,095 12,205	1,322 510 1,640	1,030 440 1,356	2,741 415 8,218	955 665 470	1,675 143 806	945 454 1,990	3,737 170 3,041	910 0 3,793	1,098 1,482 3,801	1,535 395 27,410	2,598 180 23,282
大学入学人数【2017】	19,053	3,421	2,625	11,845	2,059	2,794	3,351	7,261	4,597	6,720	30,804	26,505
(国公私別)【2017】	5,846 1,157 12,050	1,352 548 1,521	1,091 463 1,071	2,825 438 8,582	1,000 666 393	1,731 151 912	993 461 1,897	3,901 170 3,190	951 0 3,646	1,141 1,696 3,883	1,594 405 28,805	2,701 183 23,621
県外から流入【2017】	5,000	1,473	1,266	5,957	1,195	1,906	1,774	4,298	2,543	4,086	20,387	16,772
県内から流出【2017】	6,859	3,108	3,376	4,244	2,728	3,352	6,208	11,830	7,031	6,505	24,168	19,841
流出入差(流入-流出)【2017】	-1,859	-1,635	-2,110	1,713	-1,533	-1,446	-4,434	-7,532	-4,488	-2,419	-3,781	-3,069
自県進学率【2017】	67.2%	38.5%	28.7%	58.1%	24.1%	20.9%	20.3%	20.0%	22.6%	28.8%	30.1%	32.9%
18歳人口推計【2040】	31,499	7,499	7,607	15,601	5,135	6,755	11,794	19,251	13,491	12,581	47,985	41,481
大学進学率推計【2040】	17,121	3,397	3,340	7,409	2,098	2,639	5,598	10,305	6,868	6,172	28,770	23,873
大学進学率推計【2040】	54.4%	45.3%	43.9%	47.5%	40.9%	39.1%	47.5%	53.5%	50.9%	49.1%	60.0%	57.6%
大学入学人数推計【2040】	15,389	2,408	1,866	8,533	1,391	1,947	2,422	5,507	3,432	4,951	25,630	21,767
(国公私別)【2040】(※注)	4,722 935 9,733	952 386 1,071	775 329 761	2,035 316 6,182	675 450 265	1,206 105 636	718 333 1,371	2,959 129 2,420	710 0 2,722	841 1,250 2,861	1,326 337 23,966	2,218 150 19,398
入学定員充足率推計【2040】	81.4%	69.4%	66.0%	75.0%	66.5%	74.2%	71.5%	79.3%	73.0%	77.6%	87.4%	83.5%
(国公私別)【2040】(※注)	84.1% 85.3% 79.7%	72.0% 75.6% 65.3%	75.3% 74.8% 56.1%	74.2% 76.0% 75.2%	70.7% 67.6% 56.5%	72.0% 73.6% 78.9%	75.9% 73.4% 68.9%	79.2% 75.8% 79.6%	78.0%	71.8% 76.6% 84.3%	75.3% 86.4% 85.3%	87.4% 85.4% 83.5%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)②

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
18歳人口【2017】	105,971	80,472	22,252	10,063	11,393	8,156	8,325	21,297	20,795	35,989	74,550	18,382
高校等卒業者数【2017】	102,326	66,400	19,427	9,115	10,550	7,564	8,229	18,898	18,379	32,825	65,204	16,212
大学進学率【2017】	77.103	43.758	9.169	4.559	5.658	4.092	5.041	8.980	9.725	17.323	38.905	8.299
大学進学率【2017】	72.8%	54.4%	41.2%	45.3%	49.7%	50.2%	60.6%	42.2%	46.8%	48.1%	52.2%	45.1%
(国公私別)【2017】	6.2% 0.9% 65.7%	3.4% 1.1% 49.9%	8.6% 3.0% 29.7%	14.9% 4.1% 26.3%	13.8% 3.6% 32.3%	13.1% 5.6% 31.4%	8.9% 5.0% 46.7%	8.2% 3.3% 30.7%	9.1% 2.8% 34.9%	7.8% 3.5% 36.8%	9.1% 2.8% 40.3%	8.6% 2.3% 34.2%
短大進学率【2017】	2.5%	3.5%	4.3%	6.7%	6.9%	5.3%	5.6%	8.7%	6.9%	4.1%	3.8%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	11.7%	15.7%	26.0%	17.0%	13.5%	14.8%	17.5%	20.8%	13.2%	17.2%	12.6%	15.0%
大学数【2017】	138	32	18	5	12	6	7	9	12	12	51	7
(国公私別)【2017】	12 2 124	2 2 28	3 3 12	1 1 3	2 3 7	1 2 3	1 2 4	1 2 6	1 3 8	2 2 8	4 4 43	1 1 5
入学定員【2017】	142,722	45,971	5,907	2,450	5,901	2,275	3,835	3,428	4,820	8,001	40,877	3,110
入学定員(国公私別)【2017】	9,740 1,570 131,412	1,662 1,070 43,239	2,482 585 2,840	1,800 330 320	1,726 350 3,825	855 425 995	825 990 2,020	1,978 380 1,070	1,240 200 3,380	2,145 890 4,968	3,982 1,708 35,187	1,310 100 1,700
大学入学人数【2017】	153,113	49,011	5,972	2,480	6,063	2,418	3,829	3,621	4,649	8,157	43,163	3,299
(国公私別)【2017】	10,180 1,641 141,292	1,713 1,188 46,110	2,588 620 2,764	1,853 356 271	1,779 376 3,908	875 476 1,067	854 1,148 1,827	2,074 448 1,099	1,271 212 3,166	2,193 988 4,976	4,177 1,787 37,199	1,370 100 1,829
県外から流入【2017】	102,137	31,242	2,711	1,547	3,534	1,135	2,622	2,173	2,730	3,255	15,170	1,595
県内から流出【2017】	26,127	25,989	5,908	3,626	3,129	2,809	3,834	7,532	7,806	12,421	10,912	6,595
流出入差(流入-流出)【2017】	76,010	5,253	-3,197	-2,079	405	-1,674	-1,212	-5,359	-5,076	-9,166	4,258	-5,000
自県進学率【2017】	66.1%	40.6%	35.6%	20.5%	44.7%	31.4%	23.9%	16.1%	19.7%	28.3%	72.0%	20.5%
18歳人口推計【2040】	106,569	61,879	14,216	6,610	7,819	5,414	5,195	13,687	13,839	24,828	57,157	12,497
大学進学率推計【2040】	77,539	34,848	5,863	3,157	4,179	3,255	3,721	5,770	6,949	12,762	31,099	5,804
大学進学率推計【2040】	72.8%	56.3%	41.2%	47.8%	53.4%	60.1%	71.6%	42.2%	50.2%	51.4%	54.4%	46.4%
大学入学人数推計【2040】	131,389	40,573	4,032	1,804	4,469	1,883	2,942	2,610	3,516	6,168	33,550	2,442
(国公私別)【2040】(※注)	8,736 1,408 121,246	1,418 983 38,171	1,747 419 1,866	1,348 259 197	1,311 277 2,881	681 371 831	656 882 1,404	1,495 323 792	961 160 2,395	1,658 747 3,762	3,247 1,389 28,914	1,014 74 1,354
入学定員充足率推計【2040】	92.1%	88.3%	68.3%	73.6%	75.7%	82.8%	76.7%	76.2%	73.0%	77.1%	82.1%	78.5%
(国公私別)【2040】(※注)	89.7% 89.7% 92.3%	85.3% 91.9% 88.3%	70.4% 71.6% 65.7%	74.9% 78.5% 61.6%	76.0% 79.2% 75.3%	79.7% 87.2% 83.5%	79.5% 89.1% 69.5%	75.6% 85.0% 74.0%	77.5% 80.2% 70.8%	77.3% 83.9% 75.8%	81.5% 81.3% 82.2%	77.4% 74.0% 79.6%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)③

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
18歳人口【2017】	14,537	24,543	85,687	54,774	14,072	9,998	5,427	6,517	19,189	27,297	13,098	7,159
高校等卒業生数【2017】	12,884	23,480	75,858	47,201	12,061	8,986	4,881	6,045	17,762	23,780	11,321	6,443
大学進学者数【2017】	7,182	15,884	47,347	30,147	8,016	4,324	2,115	2,650	9,183	14,995	5,069	3,318
大学進学率【2017】	49.4%	64.7%	55.3%	55.0%	57.0%	43.2%	39.0%	40.7%	47.9%	54.9%	38.7%	46.3%
(国公私別)【2017】	7.1% 2.9% 39.4%	8.4% 3.9% 52.4%	5.4% 2.7% 47.2%	8.5% 3.8% 42.7%	9.6% 3.9% 43.4%	9.5% 4.0% 29.7%	13.3% 3.1% 22.6%	13.9% 4.3% 22.5%	12.7% 3.4% 31.8%	11.6% 5.1% 38.2%	9.9% 4.1% 24.7%	14.5% 2.7% 29.1%
短大進学率【2017】	5.7%	5.4%	5.5%	4.4%	5.4%	5.6%	7.3%	6.9%	4.1%	3.8%	5.0%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	16.9%	13.7%	15.0%	13.9%	14.1%	16.7%	19.3%	22.0%	17.1%	11.8%	16.5%	16.6%
大学数【2017】	8	34	55	37	11	3	3	2	17	20	10	4
(国公私別)【2017】	2 1 5	3 4 27	2 2 51	2 3 32	3 2 6	1 1 1	1 1 1	1 1 0	1 2 14	1 4 15	1 3 6	2 0 2
入学定員【2017】	7,098	32,736	51,582	26,955	4,813	1,605	1,496	1,457	9,670	13,531	4,226	2,983
入学定員(国公私別)【2017】	950 600 5,548	3,706 920 28,110	4,155 2,776 44,651	2,690 1,792 22,473	730 348 3,735	890 180 535	1,140 276 80	1,157 300 0	2,198 430 7,042	2,338 1,515 9,678	1,917 959 1,350	1,388 0 1,595
大学入学者数【2017】	7,498	33,783	54,891	28,060	4,993	1,640	1,591	1,516	9,330	13,547	4,290	2,769
(国公私別)【2017】	1,023 641 5,834	3,837 979 28,967	4,276 2,916 47,699	2,792 1,873 23,395	786 362 3,845	936 181 523	1,181 320 90	1,195 321 0	2,278 472 6,580	2,466 1,689 9,392	1,997 1,019 1,274	1,447 0 1,322
県外から流入【2017】	5,968	25,789	27,862	14,270	3,799	1,148	1,275	1,125	5,279	5,726	3,098	1,506
県内から流出【2017】	5,652	7,890	20,318	16,357	6,822	3,832	1,799	2,259	5,132	7,174	3,877	2,055
流出入差(流入-流出)【2017】	316	17,899	7,544	-2,087	-3,023	-2,684	-524	-1,134	147	-1,448	-779	-549
自県進学率【2017】	21.3%	50.3%	57.1%	45.7%	14.9%	11.4%	14.9%	14.8%	44.1%	52.2%	23.5%	38.1%
18歳人口推計【2040】	11,375	17,431	58,280	39,050	8,874	6,224	3,994	4,887	13,744	20,268	8,972	4,789
大学進学者数推計【2040】	6,233	12,868	34,683	22,294	5,452	2,914	1,821	2,127	7,436	11,564	3,623	2,216
大学進学率推計【2040】	54.8%	73.8%	59.5%	57.1%	61.4%	46.8%	45.6%	43.5%	54.1%	57.1%	40.4%	46.3%
大学入学者数推計【2040】	5,919	26,287	41,083	21,098	3,691	1,186	1,256	1,201	7,358	10,519	3,419	1,997
(国公私別)【2040】(※注)	808 506 4,606	2,986 762 22,540	3,200 2,182 35,700	2,099 1,408 17,590	581 268 2,842	677 131 378	932 253 71	946 254 0	1,796 372 5,189	1,915 1,312 7,293	1,592 812 1,015	1,044 0 953
入学定員充足率推計【2040】	83.4%	80.3%	79.6%	78.3%	76.7%	73.9%	84.0%	82.4%	76.1%	77.7%	80.9%	66.9%
(国公私別)【2040】(※注)	85.0% 84.3% 83.0%	80.6% 82.8% 80.2%	77.0% 78.6% 80.0%	78.0% 78.6% 78.3%	79.6% 76.9% 76.1%	76.1% 72.7% 70.7%	81.8% 91.5% 88.8%	81.8% 84.7%	81.7% 86.6% 73.7%	81.9% 86.6% 75.4%	83.0% 84.7% 75.2%	75.2% 59.8%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)④

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他
18歳人口【2017】	9,652	13,586	6,626	48,031	9,058	14,269	17,635	10,921	11,299	16,389	16,978	
高校等卒業生数【2017】	8,662	11,480	6,081	42,435	8,106	12,977	15,622	10,102	10,329	14,765	14,607	
大学進学者数【2017】	4,733	6,373	2,685	23,157	3,566	5,471	7,453	4,029	4,267	6,184	6,304	19,041
大学進学率【2017】	49.0%	46.9%	40.5%	48.2%	39.4%	38.3%	42.3%	36.9%	37.8%	37.7%	37.1%	
(国公私別)【2017】	12.5% 3.0% 33.5%	13.9% 3.6% 29.5%	8.7% 5.7% 26.1%	10.0% 3.0% 35.2%	12.5% 2.4% 24.5%	13.1% 4.5% 20.8%	9.6% 3.8% 28.9%	12.5% 3.7% 20.7%	12.0% 3.9% 21.9%	12.1% 2.7% 22.9%	9.7% 3.0% 24.5%	
短大進学率【2017】	5.2%	5.7%	6.0%	5.1%	5.2%	4.6%	3.5%	7.9%	5.6%	7.8%	3.8%	
専門学校進学率(現役)【2017】	15.5%	18.5%	17.6%	16.2%	15.1%	17.2%	17.7%	20.5%	16.0%	20.1%	25.0%	
大学数【2017】	4	5	3	35	2	8	9	5	7	6	8	
(国公私別)【2017】	1 1 2	1 1 3	1 2 0	3 4 28	1 0 1	1 1 6	1 1 7	1 1 3	1 2 4	2 0 4	1 3 4	
入学定員【2017】	2,184	3,630	1,935	24,675	1,741	4,021	5,902	3,520	2,510	3,700	3,912	
入学定員(国公私別)【2017】	1,239 90 855	1,770 100 1,760	1,075 860 0	4,111 1,970 18,594	1,291 0 450	1,641 690 1,690	1,672 480 3,750	1,070 80 2,370	1,035 300 1,175	2,075 0 1,625	1,547 640 1,725	
大学入学者数【2017】	2,077	3,789	2,045	26,320	1,772	3,921	5,851	3,097	2,329	3,570	4,244	
(国公私別)【2017】	1,279 90 708	1,866 100 1,823	1,131 914 0	4,234 2,083 20,003	1,339 0 433	1,687 747 1,487	1,737 525 3,589	1,105 83 1,909	1,064 310 955	2,164 0 1,406	1,589 676 1,979	
県外から流入【2017】	1,256	1,694	1,501	11,191	1,230	2,064	2,503	2,100	1,217	1,490	817	
県内から流出【2017】	3,912	4,278	2,141	8,028	3,024	3,614	4,105	3,032	3,155	4,104	2,877	
流出入差(流入-流出)【2017】	-2,656	-2,584	-640	3,163	-1,794	-1,550	-1,602	-932	-1,938	-2,614	-2,060	
自県進学率【2017】	17.3%	32.9%	20.3%	65.3%	15.2%	33.9%	44.9%	24.7%	26.1%	33.6%	54.4%	
18歳人口推計【2040】	6,712	8,981	4,366	39,997	6,371	9,514	13,828	8,020	8,133	12,605	14,974	
大学進学者数推計【2040】	3,330	4,901	2,049	21,390	2,978	3,907	6,743	3,013	3,414	6,010	5,778	16,724
大学進学率推計【2040】	49.6%	54.6%	46.9%	53.5%	46.7%	41.1%	48.8%	37.6%	42.0%	47.7%	38.6%	
大学入学者数推計【2040】	1,549	2,907	1,562	23,092	1,519	3,088	5,149	2,512	1,917	3,268	3,807	
(国公私別)【2040】(※注)	954 67 528	1,432 77 1,399	864 698 0	3,715 1,827 17,549	1,148 0 371	1,329 588 1,171	1,529 462 3,158	896 67 1,548	876 255 786	1,981 0 1,287	1,425 606 1,775	
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	80.1%	80.7%	93.6%	87.3%	76.8%	87.2%	71.4%	76.4%	88.3%	97.3%	
(国公私別)【2040】(※注)	77.0% 74.6% 61.7%	80.9% 76.7% 79.5%	80.4% 81.2%	90.4% 92.8% 94.4%	88.9%	82.5% 81.0% 85.3%	89.3% 91.4% 96.3%	84.2%	83.8% 84.2% 65.3%	84.6% 85.0% 66.9%	95.5%	79.2% 92.1% 94.8%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

資料6 国公立大学 情報系学部 志願状況（2019～2022年度）

番号	設置	所在地	大学名	学部名	学科	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			
						志願	入学	倍率	志願	入学	倍率	志願	入学	倍率	志願	入学	倍率	
1	国立	群馬県	群馬大学	情報学部 *1	情報学科 *1	431	102	4.2	561	102	5.5	640	183	3.5	613	171	3.6	
2		静岡県	静岡大学	情報学部	*2	1,337	249	5.4	1,057	246	4.3	914	247	3.7	995	248	4.0	
3		愛知県	名古屋大学	情報学部	人間・社会情報学科	179	38	4.7	125	40	3.1	159	35	4.5	123	39	3.2	
4		滋賀県	滋賀大学	データサイエンス学部	データサイエンス学科	496	105	4.7	444	105	4.2	408	100	4.1	371	104	3.6	
5		広島県	広島大学	情報科学部	情報科学科	266	86	3.1	243	88	2.8	280	84	3.3	252	85	3.0	
6		福岡県	九州工業大学	情報工学部	教養課程 *5	1,506	425	3.5	1,247	411	3.0	1,475	419	3.5	1,386	413	3.4	
7		長崎県	長崎大学	情報データ科学部	情報データ科学科	(設置前)	(設置前)	(設置前)	377	116	3.3	254	111	2.3	381	113	3.4	
8	公立	神奈川県	横浜市立大学	データサイエンス学部	データサイエンス学科	249	64	3.9	301	63	4.8	395	63	6.3	318	67	4.7	
9		愛知県	愛知県立大学	情報科学部	(人間) 情報科学学科	305	94	3.2	276	96	2.9	366	95	3.9	380	95	4.0	
10		京都府	福知山公立大学	情報学部	情報学科 *1	(設置前)	(設置前)	(設置前)	233	108	2.2	290	102	2.8	427	106	4.0	
11		岡山県	岡山県立大学	情報工学部	*3	2,024	158	12.8	2,028	141	14.4	1,846	143	12.9	1,758	145	12.1	
12		広島県	広島市立大学	情報科学部	教養課程 *4	1,063	232	4.6	889	230	3.9	1,445	228	6.3	1,213	221	5.5	
13		高知県	高知工科大学	情報学群	情報学群	427	114	3.7	553	102	5.4	408	110	3.7	444	108	4.1	
合計						8,283	1,667	5.0	8,334	1,848	4.5	8,880	1,920	4.6	8,661	1,915	4.5	
									20/19						22/21			
									101%	111%				107%	104%	98%		100%

※出典：大学改革支援・学位授与機構ウェブサイト「大学基本情報」掲載の「学科別学生数|入学志願者数|入学者数」より

*1：2020年度まで社会情報学部。社会情報学科、情報行動学科、情報社会科学科が設置されていた。

*2：情報科学科、行動情報学科、情報社会学科を含む。

*3：情報通信工学科、情報システム工学科、人間情報工学科を含む。

*4：入学時は一括募集。2年次より情報工学科、システム工学科、知能工学科、医用情報科学科。

*5：入学時は一括募集。2年次より知能機械工学科、情報・通信工学科、知的システム工学科、物理情報工学科、生命化学情報工学科。

資料7 下関市立大学経済学部 志願者等の状況
(2018～2022年度)

●経済学部経済学科

年度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学定員 充足率
2022	195	1,362	862	366	198	101.5%
2021	195	1,571	990	360	209	107.2%
2020	195	1,788	937	340	198	101.5%
2019	195	1,764	1,185	425	238	122.1%
2018	195	1,753	1,204	410	218	111.8%

●経済学部国際商学科

年度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学定員 充足率
2022	195	1081	647	370	230	117.9%
2021	195	1453	859	334	192	98.5%
2020	195	1653	851	361	209	107.2%
2019	195	1355	844	416	240	123.1%
2018	195	1836	1065	414	233	119.5%

●経済学部公共マネジメント学科

年度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学定員 充足率
2022	60	364	216	87	51	85.0%
2021	60	641	394	97	57	95.0%
2020	60	817	441	109	70	116.7%
2019	60	656	430	138	80	133.3%
2018	60	698	434	131	62	103.3%

※いずれも以下の入試結果を含む。

- ・全国推薦
- ・地域推薦
- ・一般選抜 前期日程 A方式
- ・一般選抜 前期日程 B方式
- ・一般選抜 公立大学中期日程
- ・特別選抜 社会人・帰国子女
- ・外国人留学生

資料8 下関市立大学経済学部 学生数ならびに収容定員充足状況

学部	学科	1年	2年	3年	4年	計	収容定員	収容定員充足率
経済学部	経済学科	198	207	203	268	876	796	110.1%
	国際商学科	230	190	211	264	895	796	112.4%
	公共マネジメント学科	51	57	73	92	273	248	110.1%
	計	479	454	487	624	2,044	1,840	111.1%

※2022年5月1日時点。留学生を含む。

資料9 下関市立大学 学生募集に向けた具体的な取組実績

1 オープンキャンパス実施状況

区分	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
実施日数	2	2	未実施	3	3	3
参加者数（延べ数）	715	435		1374	1043	1164

2 高校訪問

区分	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
訪問高校数	68	49	44	257	266	275
うち教員訪問	26	26	27	47	48	47
うち職員訪問	42	23	17	210	218	228

3 高校受け入れ

区分	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
受入高校数（延数）	6	9	2	13	19	25

4 入試説明会

区分	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
参加回数	49	46	30	38	37	31

5 その他学生募集のために工夫していること

地方試験会場の設置

前期日程 下関会場のほか、広島、大阪、福岡に会場を設置

中期日程 下関会場のほか、広島、大阪、福岡、鹿児島、高松、名古屋に会場を設置

海峽の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

English 中文 韓国

Google 検索 サイト内検索 文字サイズ 小 中 大

受験生の方 在学生・保護者の方 卒業生の方 企業の方 地域一般の方

大学概要 学部・大学院・専攻科 学生生活 キャリア・就職支援 国際交流 社会貢献・公開講座 図書館・附属機関 入試情報

オープンキャンパス 2022

ホーム > オープンキャンパス2022



2022年8月6日・7日に行われたオープンキャンパスの様子が視聴いただけます。
※拡大してご覧ください。

大学紹介



入試説明会



【経済学部】経済学科紹介



【経済学部】国際商学科紹介



【経済学部】公共マネジメント学科紹介



小論文対策講座



留学説明会



在学生による研究成果報告会



ホーム ユーザー アイコン 通知 設定



海峽の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人
下関市立大学

852件の「いいね!」・フォロワー912人

メッセージ いいね! 検索

投稿 基本データ メンション レビュー フォロワー 写真 その他

自己紹介

下関市立大学公式フェイスブックページ。下関市立大学が運営しています。

- ページ・大学
- 下関市 (Japan・山口県)
- 083-252-0288
- koho@shimonoseki-cu.ac.jp

投稿

下関市立大学
1月25日 10:05

こんにちは。学生広報スタッフの望です。2022年11月12日(土)、13日(日)に開催された第61回馬開祭について、大学祭実行委員長として運営に奔走された大原拓海さんにお話を伺いましたのでレポートします。
詳しくはこちら
<https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/~/gaku.../koho230125.pdf...> もっと見る

資料11 下関市立大学データサイエンス学部 広報計画（案）

	2023年												2024年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1/23~2/3 一般選拔出願期間							OC			○~○ 学校推薦・特別選拔出願期間		○~○ 一般選拔出願期間		
新学部+OCポスター			申請書類提出	制作 →	完成										
新学部リーフレット（高校訪問用）				制作 →	完成										
TV-CM（新学部告知／山口、福岡、広島）								準備・制作 →	申請認可	OA →					
新学部プロモーション動画								準備・制作 →		WEB公開 →					
Web広告（リスティング、バナーほか）													→		
交通広告（駅貼りポスターほか）										準備・制作 →		→			
新聞広告								●					●		
進学情報誌								● VOICE					● 入試直前激励号		
進学情報サイト															→
															→

下関市立大学
「データサイエンス学部（仮称）」
設置に係る人材需要の見通し調査
(設置構想についての人材需要アンケート調査)
報告書

2023（令和5）年2月
株式会社高等教育総合研究所

下関市立大学
「データサイエンス学部(仮称)」
設置に係る人材需要の見通し調査
(設置構想についての人材需要アンケート調査)

報告書 目次

1. 人材需要アンケート調査 実施概要	3
2. 人材需要アンケート調査 集計結果	4
3. 人材需要アンケート調査 集計結果ポイント	9
(添付資料)	11
人材需要アンケート調査用紙(紙方式)	12
「データサイエンス学部(仮称)」リーフレット(紙方式)	14
人材需要アンケート調査回答画面(Web方式)	16

1. 人材需要アンケート調査 実施概要

調査対象	<p>下関市立大学が2024(令和6)年度に設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材の採用が見込まれる、以下に依頼した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■山口県内の情報通信業、インターネット業、ソフトウェア関連 ■山口県内でデータサイエンティストの人材需要が見込まれる全業種(上記以外で従業員規模100人以上)の企業 ■山口県の周辺県(広島県・福岡県・岡山県)でデータサイエンティストの人材需要が見込まれる全業種(従業員規模1,000人以上)の企業 ■本学で開催した企業説明会参加企業 ■山口県・広島県・福岡県・佐賀県・長崎県・大分県の医療機関(病床数500床以上) ■地方自治体(山口県は県庁および全市町村、山口県以外の中国4県、四国4県、九州7県は県庁および政令指定都市) ■山口県・広島県・福岡県・佐賀県・長崎県・大分県の製薬・医療機器メーカー以上、合計1,001箇所アンケート調査用紙を送付した。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ●回答元の基本情報(業種、本社・主たる事業所等所在地、従業員・職員規模) ●下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材のニーズ、採用意向 <p>全7問で主に選択肢式(一部記述)。</p>
調査時期	2022(令和4)年12月～2023(令和5)年1月
調査方法	<p>調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状・人材需要アンケート調査用紙・「データサイエンス学部(仮称)」リーフレット・返送用封筒を各1部送付した(依頼状にはWEB回答用サイトへのURL・QRコードを記載)。ご協力いただける場合は、紙方式・WEB方式のいずれかのみで回答いただいた。</p>
回答件数	264箇所(回収率26.4%)

2. 人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるものをお答えください。(最もあてはまるもの1つにマーク)

選択肢	回答数	構成比(%)
1 農業、林業、漁業、鉱業	2	0.8%
2 建設業	22	8.3%
3 製造業	59	22.3%
4 電気、ガス、熱供給、水道業	4	1.5%
5 通信業、放送業	5	1.9%
6 情報サービス業	19	7.2%
7 インターネット付随サービス業	1	0.4%
8 映像・音声・文字情報制作業	0	0.0%
9 運輸業	15	5.7%
10 卸売業、小売業	62	23.5%

選択肢	回答数	構成比(%)
11 金融業、保険業	8	3.0%
12 不動産業、物品賃貸業	5	1.9%
13 宿泊業、飲食サービス業	2	0.8%
14 教育、学習支援	2	0.8%
15 医療、福祉	12	4.5%
16 学術研究、専門・技術サービス業	10	3.8%
17 複合サービス業、その他サービス	15	5.7%
18 公務	16	6.1%
19 その他	4	1.5%
無回答	1	0.4%
合計	264	100.0%

問2 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択肢	回答数	構成比(%)
1 北海道	0	0.0%
2 青森県	0	0.0%
3 岩手県	0	0.0%
4 宮城県	0	0.0%
5 秋田県	0	0.0%
6 山形県	0	0.0%
7 福島県	0	0.0%
8 茨城県	0	0.0%
9 栃木県	0	0.0%
10 群馬県	0	0.0%
11 埼玉県	0	0.0%
12 千葉県	0	0.0%
13 東京都	43	16.3%
14 神奈川県	0	0.0%
15 新潟県	0	0.0%
16 富山県	0	0.0%
17 石川県	0	0.0%
18 福井県	0	0.0%
19 山梨県	0	0.0%
20 長野県	0	0.0%
21 岐阜県	1	0.4%
22 静岡県	1	0.4%
23 愛知県	2	0.8%
24 三重県	0	0.0%

選択肢	回答数	構成比(%)
25 滋賀県	1	0.4%
26 京都府	0	0.0%
27 大阪府	16	6.1%
28 兵庫県	1	0.4%
29 奈良県	0	0.0%
30 和歌山県	0	0.0%
31 鳥取県	1	0.4%
32 島根県	1	0.4%
33 岡山県	12	4.5%
34 広島県	33	12.5%
35 山口県	79	29.9%
36 香川県	1	0.4%
37 徳島県	0	0.0%
38 愛媛県	8	3.0%
39 高知県	1	0.4%
40 福岡県	50	18.9%
41 佐賀県	6	2.3%
42 長崎県	5	1.9%
43 熊本県	0	0.0%
44 大分県	1	0.4%
45 宮崎県	0	0.0%
46 鹿児島県	1	0.4%
47 沖縄県	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	264	100.0%

問3 貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	～99人	18	6.8%
2	100～299人	80	30.3%
3	300～499人	30	11.4%
4	500～999人	30	11.4%
5	1,000～2,999人	58	22.0%
6	3,000人～	48	18.2%
	無回答	0	0.0%
合計		264	100.0%

問4以降は別紙・下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットを確認の上、回答を求めた。

問4 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	74	28.0%
2	ニーズはある程度高い	163	61.7%
3	ニーズはあまり高くない	22	8.3%
4	ニーズは高くない	4	1.5%
	無回答	1	0.4%
合計		264	100.0%

問5 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材を採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	70	26.5%
2	採用を検討したい	104	39.4%
3	どちらとも言えない	80	30.3%
4	採用はしない	10	3.8%
	無回答	0	0.0%
合計		264	100.0%

問6 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」で養成する人材について、採用したい、または採用を検討したいと思われる人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目	問5で「採用したい」		問5で「採用を検討したい」		合計	
	回答数	人数合計	回答数	人数合計	回答数	人数合計
1 1名	22	22	60	60	82	82
2 2名	24	48	31	62	55	110
3 3名	11	33	6	18	17	51
4 4名	3	12	1	4	4	16
5 5名	0	0	2	10	2	10
6 6名以上(人数提示なし:6名カウント)	7	42	1	6	8	48
6名以上(人数提示あり:10名)	1	10	0	-	1	10
無回答	2	-	3	-	5	-
合計	70	167	104	160	174	327

問7 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

回答内容	
1	経営の基礎についての知識を備えつつ、データやシステムへの理解もある学生が育つカリキュラム。
2	データから得られる情報を分析し、どのような方向に進めばよいかを的確に考察できる人材を輩出することは、これからも重要な役割だと思います。 印刷という分野で、こうした人材が必要となった場合は積極的に採用したいと考えますが、現時点では弊社がそれに追いついていないというのが現状です。実社会で真に役立つ人材を育成してほしいと考えます。
3	データサイエンス学部の目指されているところがよく分かっていませんが、一般的に難しいのは収集するデータの信頼性(かたよりのないかetc)と分析する人(検閲)に信頼性(かたよりのない)ことが問題視されます。弊社はエネルギー問題に取り組んでいますが、方向性(将来像)が見えることを期待します。
4	医療分野でのAIが発達すると考えているため、メーカーへ就職していただき技術の発展に寄与していただくことを期待しています。
5	地元(山口県)の企業との接点を多くもつように頑張してほしい。
6	インターンやセミナーへのご参加お待ちしております。
7	DX、IT化の時代にマッチしていると思います。
8	今データの時代なので学生時代から学べる事はとてもいいなと思いました。
9	社会的にもニーズが高まっているため、大学としても新しい戦略だと思います。
10	データ分析はあらゆる業界で必要とされていると考えます。分析力と問題の洗い出しの力がある学生を採用したいと思います。
11	社内でもDX化を推進する上でデジタル系人材は必要であると考えております。何卒、宜しくお願い申し上げます。
12	社会貢献の高い分野に導入できる学びを集めていただきたい。 ・福祉、医療、子育て、介護 ・安全な環境
13	直接的に学んだ内容が業務で活かせることが一番ですが、直接的でなくても分析する能力は広く業務で活かすことができると思います。
14	当社はほぼ100%見込生産を行っています。過去の販売データ、経済状況、業界動向の見極めにより生産計画を策定しています。統計的なデータ処理を含めたスキルはメーカーにとって重要な戦力となると思料致します。是非、以上のようなスキルをもった学生の育成教育をお願い致します。
15	この度はデータサイエンス学部についてのアンケートをいただき、誠にありがとうございます。多様な情報を使いこなす情報収集力は、弊社が大切にしている力の一つでございます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。
16	応募があった場合には、選考致します。
17	講師の質
18	当社には情報システム部があり、多くの個人情報も扱っています。多種多様なデータの変換作業を必要とされるので、期待します。
19	建設DXに対する取り組みについて、具体的に知りたいと思います。
20	ここ最近、急激に生産現場においてもDX化を推進する流れとなっている中で、必要な知見を持ち合わせた方が少なく、実務を進めるマンパワーが圧倒的に不足しています。データサイエンス学部で学んだ方は、そのニーズに応えられる人材となり得ると考えます。
21	全国47都道府県で採用しております。もちろん、山口県での採用もございます。山口県では1名～2名を採用したいと考えております。
22	IT力を強化しつつも、対人対応力も損なわず育てていけるような学部になるとより採用してゆきたいと感じております。
23	課題や価値が多様化していく中、このような分野の基礎と専門性をしっかりと習得できるのは、かなり強みになると思います。

回答内容	
24	社会的ニーズは高いと思いますが、弊社の主業務内容と分野が異なります。
25	データ分析スキルを通じたデータドリブンな考え方の基礎を身につけた人材に期待いたします。
26	データをどう取り扱うかはもちろん、多角的な角度から物事を捉え、課題解決、価値創造できる人物は強く求めています。
27	倫理観を持ち、頭でっかちになりすぎずに、社会に即した活躍ができる若者の養成を期待しております。
28	スキルの有無よりも、興味の強い方を採用したいと思うからです。
29	当社にはマーチャンダイザーという職種があり、自社のマーケットシェアを高めるため、市場の動向を見ながら価格の管理、売上の計画、販売施策を考える部門がございます。データサイエンス学部を卒業された方なら一層活躍ができるのではないかと感じました。数字を活用できる学生さんの養成をよろしくお願ひいたします。
30	社内SEや営業、店舗運営職のスタッフ業務での活躍がイメージ出来ます。社会の動きとリンクした実務的なカリキュラムを入れていただくことを希望します。
31	データサイエンスという言葉が、不明瞭。無駄にカタカナ表記は避けるべき
32	DX推進が重要視される現代において、データサイエンスは必要不可欠であると考えます。引き続きよろしくお願ひいたします。
33	養成する人材とディプロマポリシーの項目が少し分かりにくく感じた。重要なワードを目立たせるなどしては？
34	ただ、情報処理の能力を養うのではなく、データ等を活用して問題解決ができる人材を育成してほしい。
35	与えられた数字で分析ができるだけでなくどんな数字を拾ってあげればいいのか、どうやったらそれが拾えるかを考えられる能力が一番大事だと思います。
36	情報技術(IT)を学ぶカリキュラム(単位)を必須としていただきたい。データサイエンスを学んだIT技術者は使えると考えます。そういう技術を持つ学生であれば2名はほしいと考えます。
37	即戦力としての能力が養成されることを期待します。
38	貴校のデータサイエンス学部の偏差値によって、採用人数に大きく影響してくる。偏差値がある程度高い学校の方(55)が、やる気のある学生=採用人数に繋がると思います。
39	企業実務で役立つような実践的な体験を取り入れる授業があると良いと思います。
40	他の学部との差別化が、誰が見ても分かるようになるとういと思います。
41	学生の段階からDPC分析等の手法について学習してもらえると、病院の即戦力として活躍できる人材になるかと思ひます。学生のカリキュラム開示等により、病院が求める人材とマッチングできるような情報提供をお願ひしたいと思ひます。
42	事業上の意思決定に用いられる知見およびそのためのデータ収集・分析・配布の能力
43	弊社のグループ会社「正晃テック」にて、医療や研究系のシステムを開発・販売しておりますので、もしご希望の方が今後いらっしゃれば、弊社でも学んだことを活かしていただけるのではないかと考えます。
44	データを活用するにあたって、その手法を自ら推し進められる人物となって欲しい。社会人となってからもデータ収集の知識をアップデートし続けられる力を学んで欲しい。
45	地元企業への就職
46	マーケット分析 売上高分析による売場改善 数字だけ変えても意味がない事 数字と状態、現場が連動している事を理解 状態が変わらなければ数字は変わらない
47	印象としては非社会的なイメージがあるので、アクティブさを兼ね備えた人材育成を目指して頂きたい。
48	今後の情報処理サービス業界としてはとても必要な人材であり、他私学校でも積極的にデータサイエンスについては取り組んでおられますので、公立校のバイオフィニックな存在で多くの優秀な人材を輩出して欲しいと願っております。4年後5年後が楽しみです。

回答内容	
49	データの数値のみにとらわれず、机上の空論にならないような人財の育成を期待しております。
50	ビッグデータを扱い、業務の効率化や簡素化し、会社の成長に貢献していただきたいです。
51	市場データの収集ができ、更にそれをもとにどうすれば収益・集客に繋がるかを自ら考えることのできる人材を期待します。
52	技術系なので技術者としての採用は学生次第だと思います

3. 人材需要アンケート調査 集計結果ポイント

①回答元の基本情報

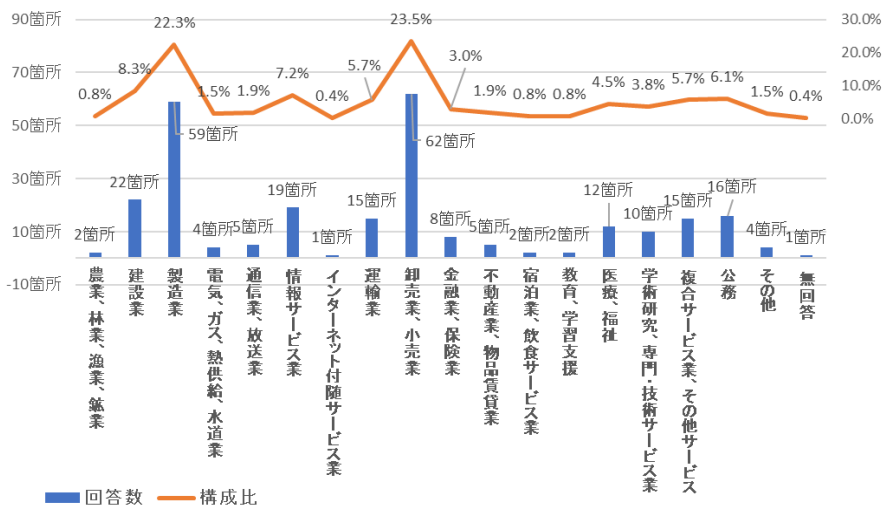
Point 1 本アンケート調査に対し、山口県内をはじめとする中国地方や九州地方、東京都・大阪府などの幅広い業種、さまざまな規模の企業・行政など計264箇所が回答。

下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」の人材需要の見通しを検証するため、人材需要アンケート調査を実施し264箇所より回答を得た。

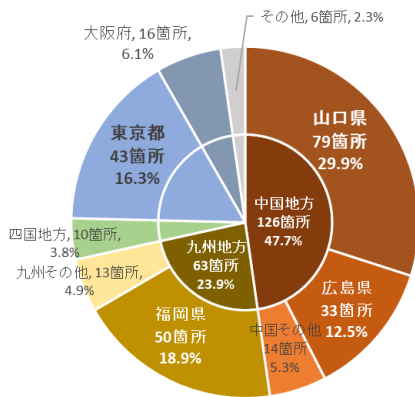
回答元の業種としては「卸売業、小売業」62箇所(23.5%)が最も多く、次いで「製造業」59箇所(22.3%)、「建設業」22箇所(8.3%)であった。他にも「情報サービス業」19箇所(7.2%)や「公務」16箇所(6.1%)など幅広い業種から回答が得られた。所在地としては「山口県」79箇所(29.9%)が最も多く、中国地方全体では126箇所(47.7%)であった(グラフ1)。県別では山口県に次いで「福岡県」50箇所(18.9%)が多く、九州地方全体では63箇所(23.9%)であった。この他、「東京都」43箇所(16.3%)、「大阪府」16箇所(6.1%)などであった(グラフ2)。従業員・職員規模別では、「100～299人」80箇所(30.3%)が最も多く、次いで「1,000～2,999人」58箇所(22.0%)、「3,000人～」48箇所(18.2%)などであった(グラフ3)。

以上の通り、本アンケート調査は山口県を中心とする中国地方、九州地方、東京・大阪などに拠点を置く幅広い業種のさまざまな規模の企業・地方自治体などから回答を得た。

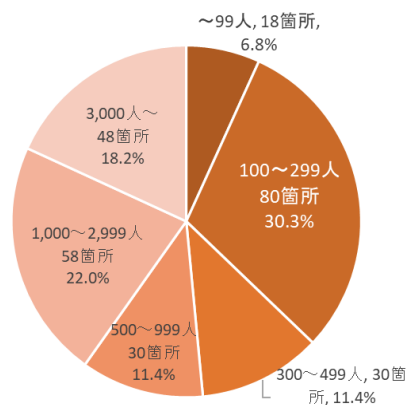
グラフ1: 回答元の業種



グラフ2: 回答元の本社・主たる事業所 (問2結果より)



グラフ3: 回答元の従業員・職員規模 (問3結果より)



②下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」について

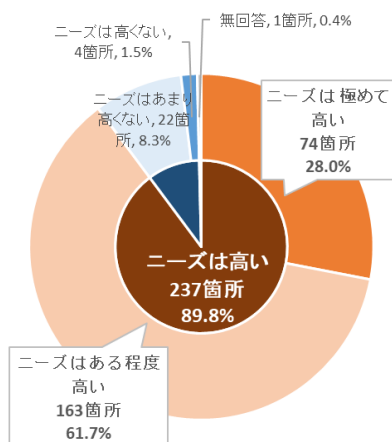
Point 2 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材の社会的ニーズについて、約9割の237箇所(89.8%)が認める結果。

Point 3 下関市立大学の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材について、6割強の174箇所(65.9%)が採用意向を示し、採用可能人数は卒業見込人数80名を大きく上回る327人。

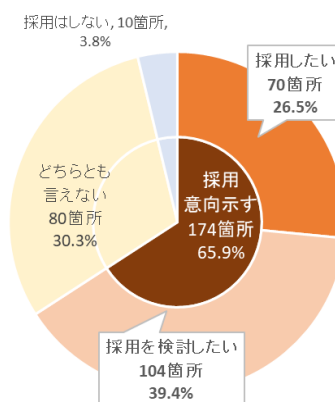
下関市立大学の「データサイエンス学部(仮称)」の概要を示した上で、養成する人材の社会的ニーズ、各回答元における採用意向について回答を求めた。

社会的ニーズについては「ニーズは極めて高い」74箇所(28.0%)、「ニーズはある程度高い」163箇所(61.7%)で、合計すると約9割の237箇所(89.8%)が本学部の社会的ニーズは高いとの認識を示した(グラフ4)。また、採用意向については「採用したい」70箇所(26.5%)、「採用を検討したい」104箇所(39.4%)で、合計すると6割強の174箇所(65.9%)が採用意向を示し(グラフ5)、その上で提示された採用可能人数は、卒業見込人数(入学定員)80名を大きく上回る合計327人(「採用したい」とした上で的人数提示のみでも167人)であった(グラフ6)。

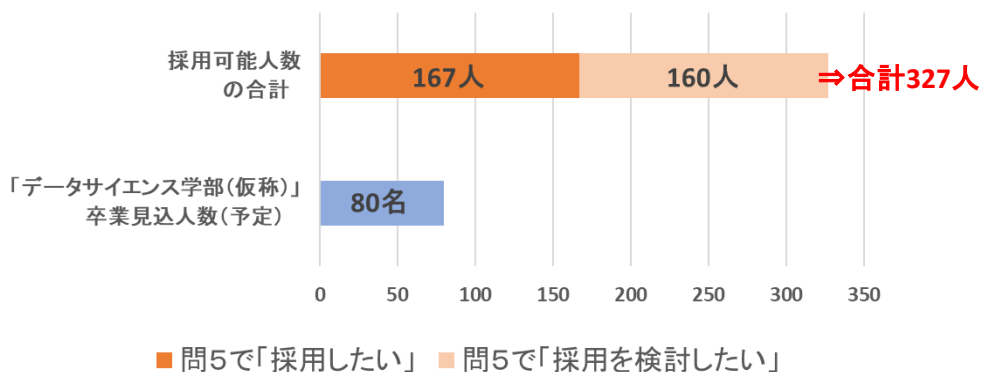
グラフ4: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」社会的ニーズについて(問4結果より)



グラフ5: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」養成人材の採用意向(問5結果より)



グラフ6: 下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」養成人材の採用可能人数(問6結果より)



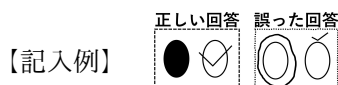
(添付資料)



下関市立大学
「データサイエンス学部(仮称・設置構想中)」
設置構想についての人材需要アンケート調査
(対象：人事採用担当者様)

下関市立大学は2024(令和6)年度、「データサイエンス学部(仮称・入学定員80名)」を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は、下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケートへのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は下関市立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。



はじめに、貴社・貴機関についてお尋ねいたします。

問1 貴社・貴機関の主業種として、あてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|---|---------------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 農業、林業、漁業、鉱業 | <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 製造業 製造品目： <input style="width: 100%;" type="text"/> |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 通信業、放送業 | <input type="radio"/> 情報サービス業 |
| <input type="radio"/> インターネット付随サービス業 | <input type="radio"/> 映像・音声・文字情報制作業 | <input type="radio"/> 運輸業 |
| <input type="radio"/> 卸売業、小売業 | <input type="radio"/> 金融業、保険業 | <input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業 |
| <input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業 | <input type="radio"/> 教育、学習支援 | <input type="radio"/> 医療、福祉 |
| <input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス業 | <input type="radio"/> 複合サービス業、その他サービス | <input type="radio"/> 公務 |
| <input type="radio"/> その他 <input style="width: 100%;" type="text"/> | | |

問2 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|--|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 福島県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 長野県 | |
| <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 三重県 | | | |
| <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | |
| <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 山口県 | | |
| <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 高知県 | | | |
| <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 | <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 <input type="radio"/> 沖縄県 |





問3 貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- ~99人 100~299人 300~499人 500~999人 1,000~2,999人 3,000人~

問4以降は別紙・下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」リーフレットをご覧の上お答えください。

問4 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまり高くない ニーズは高くない

問5 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材を採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したい 採用を検討したい どちらとも言えない 採用はしない

問6は問5で「採用したい」「採用を検討したい」と回答いただいた場合にお答えください。

問6 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」で養成する人材について、採用したい、または採用を検討したいと思われる人数をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上（よろしければ人数を記載ください）

問7 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



学 納 金

対 象	入学金	授業料	初年次学納金合計
下 関 市 内 在 住 者	141,000円	535,800円	676,800円
上 記 以 外	282,000円		817,800円

※下関市内在住者とは、本人又はその配偶者若しくは親(実父母及び養父母をいう。)が入学前年の4月1日から引き続き下関市内に住所を有すると住民票等により理事長が認めたる者をさします。
※諸会費は含まれません。

下関市立大学について

創立以来約60年の歴史を持つ公立大学です。経済学部(経済学科、国際商学科、公共マネジメント学科)のみの単科大学から、総合大学化を目指し、2024年にはデータサイエンス学部(仮称)を、2025年には看護学部(仮称)を新設する予定です。

学部・学科(2024年度予定)

学部・学科	入学定員(予定)
データサイエンス学部(仮称)	80名
・データサイエンス学科(仮称)	80名
経済学部	370名
・経済学科	155名
・国際商学科	155名
・公共マネジメント学科	60名



ACCESS

- JR下関駅**から
 - ・サンデンバス3番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
 - ・サンデンバス5番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分
- JR幡生駅**から
 - ・徒歩約20分
- JR新下関駅(新幹線・東口)**から
 - ・サンデンバス2番のりば(約15分乗車)、「川中豊町線」に乗車、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
 - ・タクシー利用の場合約10分



2024年4月
設置予定!

データサイエンス学部

データサイエンス学科

仮称・設置構想中



未来は変わる、データで変える。

FACULTY OF DATA SCIENCE

(仮称・設置構想中)

下関市立大学のデータサイエンス学部は、多様なデータを設計・分析・活用し、社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成します。

学部・学科名称	データサイエンス学部 データサイエンス学科(仮称)
開設予定時期	2024年(令和6年)4月を予定
開設予定場所	下関市立大学(山口県下関市大学町二丁目1番1号)
入学定員	80名(収容定員320名)
修業年限	4年
取得学位	学士(データサイエンス)

データサイエンスとは

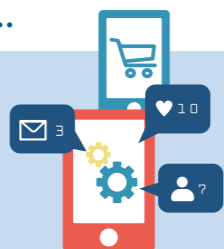
今や国内外問わず、またビジネス・保健医療福祉・行政等の幅広い分野において、データを分析し常に新しい戦略を立てることが常識となっています。そのためには普段から「課題を見つけ」「情報を集め」「分析し」「新たな知見を見出す」チカラを養っていなければなりません。

体系立った理論をもつ「情報科学」でありながら、ビジネスなどにも欠かせない「実学」でもある、それがデータサイエンスです。

データに基づく統計的な思考により課題を解決するデータサイエンスを身につけた人材、いわゆる“データサイエンティスト”は今後、世界中のあらゆる分野で活躍が期待されています。

販売業、サービス業では…

顧客情報や購入履歴、Webサイトの閲覧履歴などを分析して、「この人にはこんな商品を提案すれば購入してもらえる可能性が高い」商品を表示する。



医療分野では…

病院で蓄積される膨大な医療データを分析することで、医師や看護師の負担をできるだけ軽減しながら、病気の早期発見、予防、治療に役立っている。



下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」 養成する人材とディプロマポリシー

下関市立大学の「データサイエンス学部(仮称)」は、多様なデータを設計・分析・活用するために必要な数理統計・情報学・社会科学に関する理論と実務に習熟することにより、社会や組織が抱える課題の解決や新たな価値の創造に貢献しうる人材を養成します。次の4つの資質(A~D)を備えた人材(データサイエンティスト)に学士(データサイエンス)を授与します。

A 統計や関連する数理科学に関する知識と、それらを活用した分析の経験を通じて、データを収集・整理・分析し、そこから得られる知見を論理的に考察できる能力を身につけている。

B 情報の管理や分析、人工知能などのアルゴリズムに関する知識を有し、かつそれらをコンピュータ上で表現する経験を通じて、様々な形式のデータを適切に扱うことのできる能力を身につけている。

C 多様な専門分野でデータ分析がどのように行われているかを、各分野固有の知識とあわせて学ぶことで、データが社会に果たしうる役割を理解するとともに、データを扱ううえで必要な倫理観や責任感(モラル)を身につけている。

D 様々な人々と協力し適切なコミュニケーションをとることができ、用いた分析手法や結果の統計的解釈をわかりやすく伝達することで、課題解決やより良い企業活動などのための新しい知見をもたらすことのできる能力を身につけている。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」

カリキュラム(教育課程)の特色

本学のカリキュラム(教育課程)は、基盤教育・教養教育・専門教育の3本柱から成り立っています。

下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」では1~2年次は主にデータサイエンスの基礎科目として数理統計や情報科学を学びます。さらに3~4年次は学部専門科目として「ビジネスデータサイエンス」「ヘルスデータサイエンス」の科目群を設け実践力を養います。加えて、全学共通の基盤教育・教養科目として外国語教育科目、リベラルアーツ科目、キャリア教育科目を履修することで豊かな教養と優れた就業力を身につけ、様々なデータを活用して各分野において新たな価値を創造したり諸課題を解決に導くことができるデータサイエンティストを養成します。

学部基礎科目

データサイエンスの基盤となる数理統計・情報科学を学びます。数学・情報学をはじめ、プログラミングや確率・統計、機械学習、データ処理・分析、アルゴリズムについての知識を身につけます。

科目例 線形代数学、解析学、アルゴリズム論、データサイエンス入門・基礎・演習、人工知能概論、機械学習 など

学部専門科目

2つの科目群を設け、様々な分野で活用できるデータサイエンスの実践力を身につけます。

ビジネスデータサイエンス

様々な企業・組織の経営へのデータ活用の手法を学びます。

科目例 経営情報概論、情報システム論、オペレーションズリサーチ、E-コマース論 など

ヘルスデータサイエンス

人々の健康な生活を実現するためのデータ活用の手法を学びます。

科目例 疫学・公衆衛生学概論、保健医療学概論、遺伝学概論、バイオインフォマティクス、生物統計学 など

基盤教育・教養科目

●外国語教育科目
●リベラルアーツ科目 ●キャリア教育 ほか

4年間を通じ一貫した少人数教育

専門知識と豊かな教養を備えたデータサイエンティスト

想定される進路

卒業後はデータサイエンスの専門知識をいかし、幅広い業種で企画・マーケティング、システムエンジニアとして、または公的機関や医療機関でヘルスケアに関連する業務に従事することが想定されます。

進路先の例
●製造業・小売業・広告業・出版業 ●IT・情報通信業 ●行政
●保健・医療機関(大学病院を含む) ●研究所・シンクタンク
●製薬会社 ●金融機関(銀行・保険・証券など) ●大学院進学 など

取得可能な資格

所定の単位修得(選択制)により、下記の免許・資格が取得できます。

●中学校・高等学校教諭一種免許状(数学)
●高等学校教諭一種免許状(情報)
●社会調査士



下関市立大学 「データサイエンス学部(仮称)」 設置構想についてのアンケート調査

(対象：人事・採用ご担当者様)

1ページ目 (全3ページ)

下関市立大学は2024(令和6)年度、「データサイエンス学部(仮称・入学定員80名)」を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたくと考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は、下関市立大学「データサイエンス学部(仮称)」設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケートへのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は下関市立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

問1 貴社・貴機関の主業種として、あてはまるものをお答えください。
(最もあてはまるもの1つにマーク) **必須**

選択してください

問2 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。 **必須**

選択してください

問3 貴社の従業員数、貴機関の職員数をお答えください。 **必須**

選択してください

次へ

データサイエンス学部(仮称)リーフレット
※スクロールすることで全ページ閲覧が可能。一番下に「次へ」ボタン。

2ページ目 (全3ページ)

問4 以降は下関市立大学「データサイエンス学部 (仮称) リーフレットを
ご覧いただき、お答えください。

2024年4月
設置予定!



データサイエンス学部

データサイエンス学科

仮称・設置構想中



未来は変わる、データで変える。

FACULTY OF DATA SCIENCE

(仮称・設置構想中)

下関市立大学のデータサイエンス学部は、多様なデータを設計・分析・活用し、
社会や組織が抱える課題解決や価値創造に貢献する人材を養成します。

問4・問5・問6

問4 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。 **必須**

ニーズは極めて高い

ニーズはある程度高い

ニーズはあまり高くない

ニーズは高くない

問5 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」が養成する人材を採用したいと思われますか。 **必須**

採用したい

採用を検討したい

どちらとも言えない

採用はしない

問6 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」で養成する人材について、採用したい、または採用を検討したいと思われる人数をお答えください。 **必須**

1名

2名

3名

4名

5名

6名以上

問7 下関市立大学が設置構想中の「データサイエンス学部(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。 **任意**

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

送信

戻る